

## 協力校としての取組

阿賀町立津川小学校

### 1 研究の基本方針

- ・校内研修の取組を中核に、改善調査の分析を生かしながら全校体制で授業改善を図る。

### 2 研究主題

#### 学び合いを通して考えを深める子どもの育成

～ 思考を促す課題を設定し、考えの交流を大切に算数科の授業を目指して ～

### 3 研究主題設定の理由

#### (1) 昨年度の研究の成果と課題から

昨年度は、研究主題を「考えを伝え合い、学びを自覚する子どもの育成」と設定し、目的意識をもって取り組める算数的活動の導入・学びを深める伝え合いの組織・学びを自覚する振り返りの充実の三つを研究内容として、授業改善を試みた。昨年度の取組を通して、次のような「成果」と「課題」が明らかとなった。

- 目的意識をしっかりと持たせた算数的活動は、児童の意欲を喚起するだけでなく、思考を構築したり、可視化したり、言語化したり、追試したりする際に有効であった。
- 自分の考えをもち、図や式、言葉などを用いてかいたり、友達に説明したりする力が伸びてきた。
- 学習を振り返り、学んだことをいろいろな観点から記述できるようになってきた。
- ▲算数的活動、伝え合い（ペアやグループから全体へ）、振り返りという授業構成では、話し合いが深まらなかったり45分の授業時間を超えてしまったりすることが多かった。
- ▲個人差が大きく、課題把握や自力解決に時間がかかり、お互いの考えを十分にかかわらせることができなかった。
- ▲児童一人一人にとっての課題になっていない時があった。自分から考えたい課題、かかわりたくなる課題にする必要があった。
- ▲聞き手を意識し、反応を確かめながら発表できる児童はまだ少ない。また、問題意識をもって聞く姿勢が弱く、双方向の話し合いになりにくい。児童の話し方・聞き方を鍛えていくとともに、教師が他の児童の考えにかかわらせるよう話し合いをコーディネートしていきながら、学び合いに高めていく必要がある。
- ▲単元テストにかかわる数値目標が達成できなかった。学力の個人差に配慮しながら、基礎・基本の確実な定着を図っていかなければならない。

#### (2) 学習指導改善調査の結果から

当校では、本調査に対して以下のように進めてきた。

- ・6月に学習指導改善調査を実施する。
- ・夏季休業中に、グループに分かれ、全職員で実態把握と結果分析を行う。
- ・知育部が中心となって授業改善の方向性について共通理解を図り、全校体制を作る。

- ・学習指導改善調査の解説を行い，2学期以降，日々授業改善を図る。
- ・3学期に正答率の低かった問題を追試し，検証する。

学習指導改善調査による本校の傾向は，以下のとおりである。

学年	教科	つまずきの要因・誤答の傾向など
4年	国語	・全体の構成を考えて記述する力が弱い。テーマに沿った書き出しとまとめが書けない。
	理科	・方位磁針の正しい使い方が理解できていない。 ・太陽の動き方やそれに伴って影がどのようにできるかが正しく理解できていない。 ・磁石についての理解はよい。磁石と方位磁針を組み合わせて考えることができない。
5年	国語	・資料の読み取り方を指導していく必要がある。(他教科でも) ・説得力をもたせる表現の仕方について指導していく。
	算数	・他の考えを言葉で説明し，図に合う式を書く問題は，題意をとらえられず新しいやり方で解こうとしている。 ・作図の仕方に合わせて，やり方を説明したり間違いを指摘したりする問題が弱い。 ⇒ 友達の考えを説明する機会を授業でも取り入れていく。
	理科	・条件である数値を示して答えることができない。「気温か数値を使って」と問われているので，そのまま「気温の数値」という語句を使っている子が多い。
6年	国語	・キーワードや文章の構成を理解して読む力が弱い。読解に時間がかかってしまう。 ・文章を書く際の条件を理解することができていない。 ⇒ 条件を提示して，それにあった書き方をする訓練が必要。縦書きでは漢字で表記することを指導する必要がある。
	算数	・三角形の公式を活用しきれていない。×2を忘れる。 ・三角形の面積の求め方の説明に必要なキーワードが不足している。 ⇒ キーワードを取り入れながら，筋道を立てて論述する力が弱い。 ・問題から求める数値が何か読み取れていない。言葉と式で説明するという条件があるのに，問題把握ができていないため立式できず，説明に根拠が足りない。
	理科	・実験結果と水のはたらきなど，複数の事柄を関連づけて考え，記述する活動を授業で取り入れることが必要。 ・条件を述べずに，グラフの読み取りだけを述べて誤答になった児童が多い。 ・直列回路と並列回路の電流の強さの違いが理解されていない。

これらを踏まえ，今年度は，以下の3点について研修を深め，検証してきた。

- ① 教えることと考えさせることを明確にした単元や授業の構成
- ② 思考を促す課題の設定
- ③ 学びを深める話合いの組織

教える場面においては，既習事項を確認して学習のスタートラインをそろえるとともに，算数用語や新しく学ぶ基礎・基本を理解させることを目指す。考えさせる場面においては，身に付けた知識・技能を活用しながら意欲的に課題を解決しようとする児童の姿を求めていく。ここでは，思考を促す適切な課題を設定するとともに，教師がコーディネートしながら課題解決に向けて充実した話合いが展開されるよう組織していくことが重要となる。

「思考を促す課題」とは、既習事項を基にこうすれば解決できるのではないかと見通しをもち、論理的思考を働かせ、意欲的に学習対象や友達にかかわりたくなる課題ととらえる。

「学びを深める話し合い」では、何を検討するか教師が明確な考えをもち、話し合いの視点を明確にして1時間のねらいに迫るものにしていく。児童同士を関わらせたり他の考えに関わらせたりした後は、考えを表出させる手だてを講じ、学びを深める言語活動の充実を図っていく。

上記のような授業を具現していくためには、指導内容の系統性を踏まえ、既習事項を確実に指導していくことが大切である。また、単元全体を見通して、どの場面で何を教えなければいけないのか、どの場面で何を考えさせるべきかを十分検討した上で、授業を構成していかなければならない。こうした実践の積み重ねが、基礎・基本の定着と、思考力・判断力・表現力の育成につながるものとする。

#### 4 研究仮説

教えることと考えさせることを明確にした単元や授業の構成をし、思考を促す課題の設定と考えを関わらせる話し合いを組織すれば、考えを深める子どもになるだろう。

#### 5 目指す児童の姿

##### (1) 『学び合い』

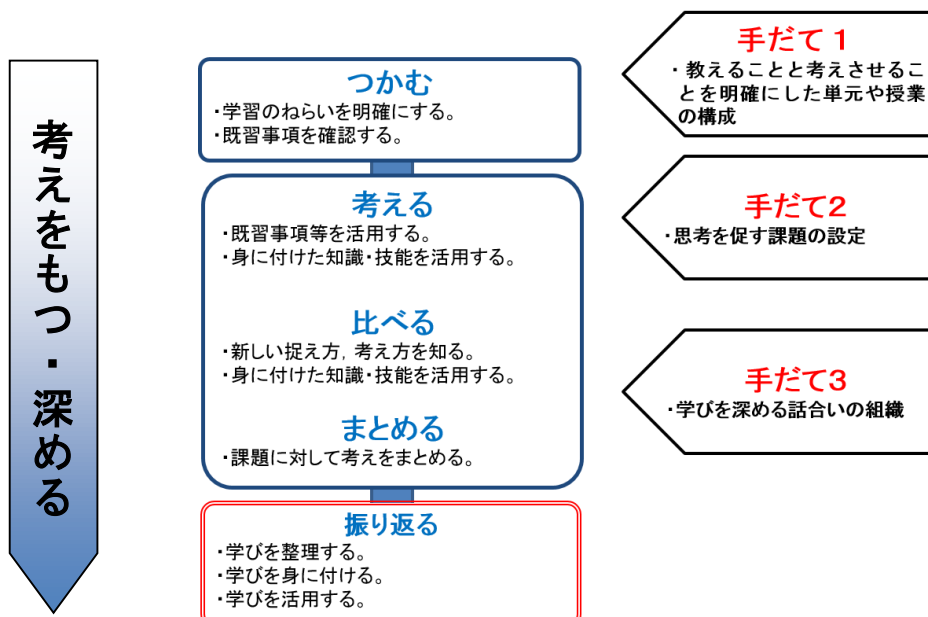
- ①課題意識をもって進んで自分の考えを伝えたり、分かりやすく説明したりする子ども
- ②質問したり意図を確かめたりして、友達の考えを理解しようと真剣に聞く子ども

##### (2) 『考えを深める』

- ③友達との交流を通して多様な考え方や他の考え方のよさを理解し、自分の考えに取り入れて生かす子ども
  - i. 自分の考えを見直し、修正する姿
  - ii. 自分の考えに、友達の考えのよさを付け足す姿
  - iii. 絵や図、表を関連付けて考えたり、図や式を用いて説明したりする姿
  - iv. 課題に対して自分の考えを練り直し、より明確に書いたり説明したりして整理する姿
  - v. かかわりで得た考え方で、類題を解いたり説明したりする姿

#### 6 研究内容

##### (1) 目指す児童の姿を具現化するための学習過程



## (2) 研究内容の具体的な視点

### 【手だて1】 教えることと考えさせることを明確にした単元や授業の構成

教えることと考えさせることを明確にし、  
指導計画や本時の展開に明示する。

確かな学力を身に付けさせるための授業構成の在り方を探る。

### 【手だて2】 思考を促す課題の設定

ア. 視点を与える（既習との違いを明確にする）  
イ. 比べる（迷うもの、あいまいなもの等）  
ウ. 当てる（全体の一部を隠す、条件不足等）  
エ. 仲間分け（きまり探し等）  
オ. 作る（式から問題作り、形作り等）  
カ. 発展、応用する

身に付けた知識・技能を活用しながら、意欲的に解決させるための課題の在り方を探る。

### 【手だて3】 学びを深める話合いの組織

キ. 一人の児童の考えを広げる。  
〔 繰り返し説明させる、予想させる、  
続きを説明させる 〕  
ク. 式や図、言葉を関連付けて、考えの根拠や問題解決の過程を共有化させる。  
〔 他の表現方法で説明をさせる、考えを数  
学的に価値付ける 〕  
ケ. 考え方の共通点や相違点を明確にし、  
ねらいに迫る話合いにさせる。  
〔 意図的な指名、キーワードの視覚化 〕  
コ. 考えを類型化する。  
〔 構造的な板書 〕

学びが深まるようなかわらせ方の有効な手立てを探る。

## (3) 「分かる・できる授業」を目指して

各学級とも、学力の差が大きいという実態がある。そこで、TTでの指導をさらに工夫・充実させるとともに、ユニバーサルデザインの視点に立った支援を取り入れていく。

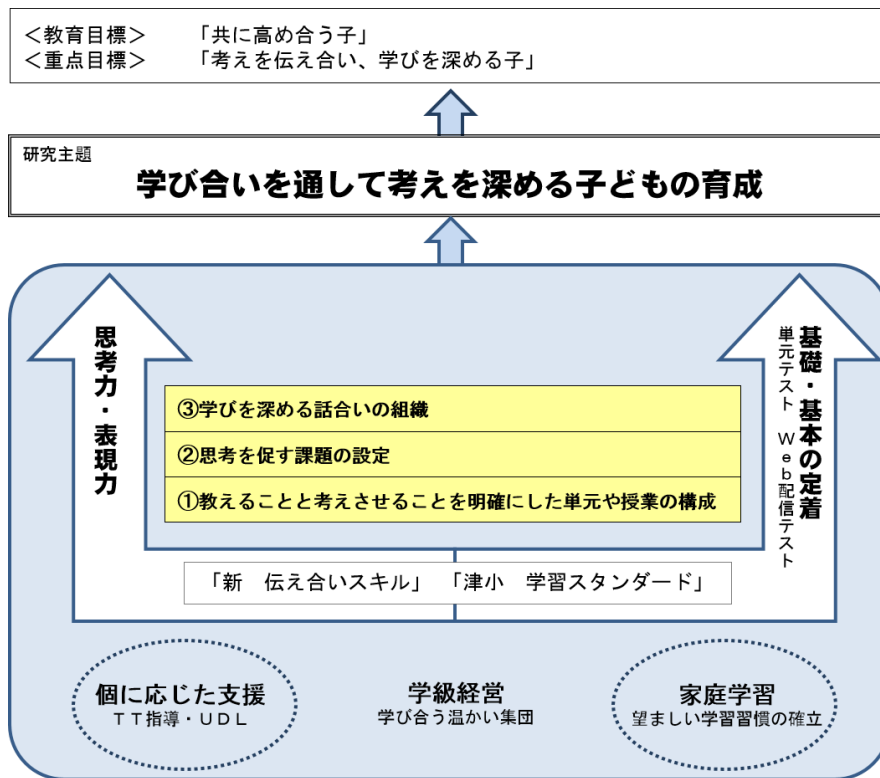
- ① MTとSTがお互いの役割を明確にし、より有効な働きかけになるようにする。
- ② 授業の前後や途中で、児童の様子を情報交換し、柔軟に対応する。
- ③ 学年によっては、少人数指導（等質、方法別、課題別、習熟度別）を行い、児童の実態に応じたきめ細やかな指導体制を作る。
- ④ 水曜日・金曜日の朝学習を「算数ミニ復習タイム」とし、級外職員を計画的に配置して、基礎・基本の定着を図る。
- ⑤ 「津小 学習スタンダード」を設定し、全校共通の約束のもとで学習する。
- ⑥ 発問や指示は短くし、活動を焦点化する。また、全体への指示のあとに、必要に応じて個への指示を加え、活動へのスムーズな参加を促す。

- ⑦ 既習事項や課題，学習内容などを視覚化し，理解を助ける。
- ⑧ 学習の流れや作業をある程度パターン化することによって，活動に慣れさせる。
- ⑨ 教材・教具を扱いやすいものにしたたり，ヒントカードを準備したりする。

## 7 研究方法

- (1) 学年研究計画を作成する。
  - ・年度初めに作成する。途中で見直し，修正しながら指導に生かす。(PDCA)
- (2) 一人一授業を公開する。
  - ・全員が参観することを基本とする。その日の放課後に協議会をもち，授業評価カードをもとに研究内容の手立てについて協議を行う。
- (3) 「津小 学習スタンダード」，「新 伝え合いスキル」の徹底を図る。
  - ・学習のきまり「津小 学習スタンダード」を配付し，家庭の協力を得ながら指導していく。新学期ごとに繰り返し指導し，徹底を図る。
  - ・「新 伝え合いスキル」を各教室に掲示し，話合いの場面で活用していく。
- (4) 指導力向上研修を年に2回以上実施する。
  - ・教師が指導力を高めるための校内研修を，8月と1月に実施する。

## 8 研究の構想図



## 9 指導の実際

- (1) 第6学年の実践（授業者： 近正直美 教諭）
  - ア 単元名 比例と反比例
  - イ 指導の構え

① 手だて1 教えることと考えさせることを明確にした授業構成

単元全体を通して、教える時間と考えさせる時間を明確にして授業を進める。本時は、「考えさせる時間」に当たるが、前時までの問題より難しくなるので、スタートラインをそろえるために、教えることと考えさせることを以下のように設定して指導する。

(教えること)

- ・ぞうの面積を求める際にはぞうの一部である正方形の「重さと面積」を利用すること
- ・この紙は、「面積」が半分になると、重さも半分になるということ

(考えさせること)

- ・公式では求められない面積はどうやったら求められるのか
- ・解き方の似ているところはどこか

② 手だて2 「一見、比例の問題には見えない」問題で思考を促す

本学級児童は、図や表を用いて問題を解くことが得意である。今回の授業では、児童が今までに身に付けてきた算数的技能を駆使して問題を解いたり友達に説明したりする姿を期待する。そのために、一般的な比例の問題ではないものを扱いたいと考えた。

本時は「ぞうの面積を求めたいのだけれど、重さしか分からない(条件不十分)」という導入から始まる。「どうやら今までの方法(公式を使った解き方)では面積が求められないみたいだ。どうしたら解けるのだろうか?」という疑問が児童から生まれることだろう。この疑問「公式では求められない面積はどうやったら求められるのだろうか」を課題として扱い、授業を展開していくこととする。

③ 手だて3 ペアトークを効果的に取り入れる。全体検討を目的別に分ける。

自力で課題を全く解くことができない児童が5名ほどいる。一方で、問題を解く力は高いが、説明することが苦手な児童もいる。学力差を考慮し、教え合いが得意な実態を生かすために、意図的な座席の指定をする。課題把握ができない児童も、ペアトークを取り入れ、解き方の話合いの時間を設けることで問題を解く手がかりを得ることができるだろう。また、助言をする側の児童も、教えることで自らの理解を深めることができるだろう。そこで、本時では全体検討を2回に分けて設定した。

1回目は、解き方を検討する場である。自分の解き方とは違う解き方を知り、比べる時間を設けることで、児童の学びが深まることを期待した。

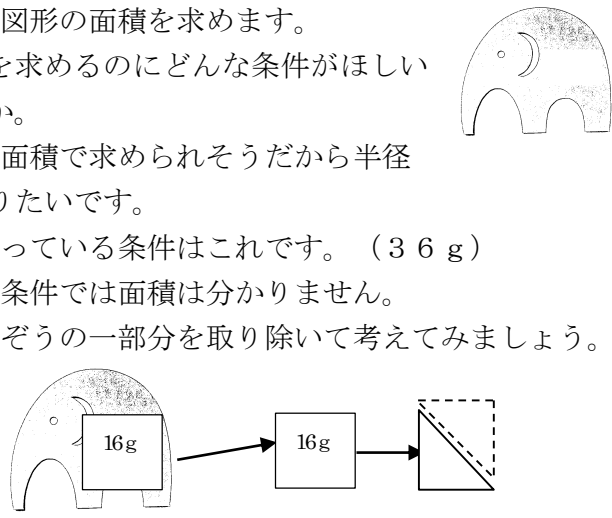
2回目は、本時の課題の答えに迫るための検討の場である。本学級の全体検討の短所として「全体検討が十分でない」という点が挙げられる。発表会にとどまってしまうため、全体としての学びの深まりが感じられなかった。そこで本時では、検討の視点をはっきりさせ目的の明らかな全体検討を行うこととした。解き方を全員で共有した後、「それぞれの解き方の似ているところはどこか」を検討する。

ウ 本時の構想

① 本時のねらい

比例の関係を導き出して問題を解くことができる。

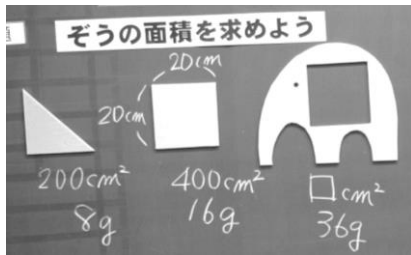
② 本時の展開

	おもな学習活動と予想される児童の反応	・留意点 □評価【教える】【考えさせる】																						
つかむ (5分)	<p>T この図形の面積を求めます。 面積を求めるのにどんな条件がほしいですか。</p> <p>C 円の面積で求められそうだから半径が知りたいです。</p> <p>T 分かっている条件はこれです。(36g)</p> <p>C この条件では面積は分かりません。</p> <p>T ではぞうの一部分を取り除いて考えてみましょう。</p> 	<p>・留意点 □評価【教える】【考えさせる】</p> <p>・図を掲示する。重さは出さない。</p> <p>・ここで確実に<u>正方形の面積を比較対象にして問題を解く</u>ことを理解させる。</p> <p>・使う条件を一つ一つ確認していく。(面積・重さ・2量の関係)</p> <p>・面積と重さの関係を板書する。問題を解く際の手掛かりにさせる。</p> <p>【教】正方形とぞうの面積と重さの関係 ・導入では比例という言葉は出さない。</p>																						
考える 【自力解決】 (10分)	<p>【ペアトーク1】</p> <p>T どうやったら解けるか、隣の人と話し合ってみよう。(2分)</p> <p>C 今までみたいに公式では求められないよ。</p> <p>C 表にしてみたら何か分からないかな。</p> <p><b>公式で求められない面積はどうすれば求められるだろう</b></p> <p>T 実際に面積を求めてみましょう。(8分) →解き終わり次第、ペアトークを始める。</p>	<p>【考】</p> <p>面積と重さの関係をヒントにし、今まで学習した解き方でぞうの面積を求める。</p> <p>□比例の関係を導き出して、問題を解くことができる。</p> <p>□自分の解き方を表や図を用いて、友達に説明することができる。</p>																						
比べる 全体検討① (15分)	<p>T 問題の解き方を発表しましょう。 (4マス関係表で解く)</p> <table border="1" data-bbox="215 1209 782 1299"> <tr> <td>cm<sup>2</sup></td> <td>x</td> <td>400</td> <td><math>x \times 16 = 400</math></td> <td><math>x = 400 \div 16</math></td> </tr> <tr> <td>g</td> <td>1</td> <td>16</td> <td></td> <td><math>x = 25</math></td> </tr> </table> <p>(比例の表をかく)</p> <table border="1" data-bbox="215 1388 598 1489"> <tr> <td>cm<sup>2</sup></td> <td>100</td> <td>200</td> <td>400</td> <td>..</td> <td>900</td> </tr> <tr> <td>g</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>16</td> <td>..</td> <td>36</td> </tr> </table>	cm <sup>2</sup>	x	400	$x \times 16 = 400$	$x = 400 \div 16$	g	1	16		$x = 25$	cm <sup>2</sup>	100	200	400	..	900	g	4	8	16	..	36	<p><b>自分と他の人の解き方を十分に比べられるよう、以下の手だてを取る。</b></p> <p>①表をかく人、表を説明する人に分ける。 →自分が使っていない表を説明することで、理解を深めさせる。</p> <p>②「説明します」(発言者)「はい」(聞く側)を徹底し聞く意識を高める。</p> <p>③表をかく際には矢印や×、÷などの記号を入れさせる。</p>
cm <sup>2</sup>	x	400	$x \times 16 = 400$	$x = 400 \div 16$																				
g	1	16		$x = 25$																				
cm <sup>2</sup>	100	200	400	..	900																			
g	4	8	16	..	36																			
まとめる 全体検討② (7分)	<p><b>T 2つの解き方の似ているところは？</b></p> <p>C どの解き方も、何倍になるかを計算していました。</p> <p>C 4マス関係表も三角形の考えを使ったときの表も、上が倍になるとき下も同じだけ倍にしています。</p> <p>T 片方が2倍、3倍になるときもう片方も2倍、3倍になる場合って何の関係にあると言ったでしょう？</p> <p>C 比例の関係です。</p> <p><b>公式で求められない面積も比例の関係を使えば解くことができる。</b></p>	<p>・ここで「2つの解き方の似ているところはどこか」の検討をさせる。 (その意味)</p> <p>①比例を意識せずに問題を解いた児童にも比例関係を見つけさせるため</p> <p>②比例の定義について再確認させるため</p>																						
ふりかへる (3分)	<p>T 学習のふり返りを書きましょう。</p> <p>C 最初はどやって面積を出すのか分からなかったけど、今まで使ってきた4マス関係表を使えば答えを出すことができた。4マス関係表も比例だった。</p>																							

## エ 授業の実際

### ① 手だて1 教えることと考えさせることを明確にした単元や授業の構成

スタートラインをそろえるために教える時間を作った上で考えさせた



本時で扱う問題は前時までとは違い、1あたりの数が求めにくく、児童が答えを出すことが難しいと考えた。そこで、自力解決のスタートラインをそろえるために、導入の工夫をした。ぞうの面積と重さとが関係していることを意識させるために、ぞうから正方形を取り出して提示した。比例の関係を導き出せるように、ぞう→正方形→三角形の3段階まで面積と重さの関係を全員で確認した。数の関係が見えるように、あえて黒板にも写真のように並べて提示した。

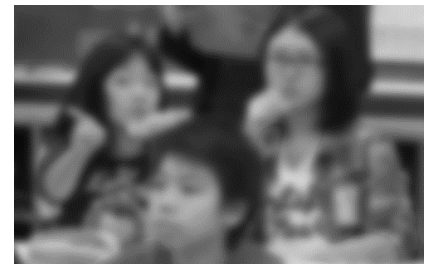
ぞうの形だけを見たときは「とても面積は求められそうにない。」と児童は困っていたが、三角形まで提示されると「これは4マス関係表が使える!」「数の関係を調べてみたい。」と問題を解く意欲を見せていた。

### ② 手だて2 思考を促す課題の設定

「一見、比例の問題には見えない」問題で思考を促す

本時の導入において、厚紙で作ったぞうを提示して、次のように問いかけた。

- |    |                             |
|----|-----------------------------|
| T1 | どうやって面積を求めますか。どんな情報が欲しいですか。 |
| C1 | 半径が分かれば面積は出せそう。             |
| T2 | 分かっている条件は、ぞうの重さが36gということです。 |
| C2 | え？重さじゃ面積は出せない。              |



「えっ?」「なぜ重さ?」というつぶやきや「面積の問題なのに公式が使えない。」という困り感が全員の中に生まれた。これにより児童の言葉を用いて本時の課題を作り出すことができた。問われていることと、自分たちが欲しい情報が違うということで、児童の中に「問い」を生むことができ、「解きたい」「説明したい」という気持ちを十分に高めることができた。

### ③ 手だて3 学びを深める話合いの組織

ペアトークを効果的に取り入れる。全体検討を目的別に分ける。

本時ではペアトークを2回取り入れた。

<1回目について>

ぞうの面積を求めるための条件を学級全体で確認したあと、どうやったら面積を求められるか話合う時間を2分設けた。この時点で、理解の早い児童は表を使えば解けることが分かっており、求め方を説明し始めていた。今回は理解に時間がかかる児童も数の関係に気が付き、話すことができていた。



<2回目について>

全体検討①で、いろいろな解き方を確認した後、次のように問いかけた。



T1 3つの解き方はどんなところが似ていますか？

C 似ているところ・・・？

T2 では3つを比べて似ているところはありませんか？

C1 1あたりを求めている。

C2 表を使っている。

C3 倍にしている。

[授業記録より抜粋]

「比例」という言葉が児童から出てこなかったため、「みんな倍にしているということとは？」と教師主導でまとめを引き出してしまった。「公式では求められない面積も比例の考えを使えば解くことができる」というまとめを導くためのペアトークであったが児童からはその答えが出なかったため、このまとめでよかったのかが協議会の論点になった。

## オ 成果と課題

### <成果>

#### 手だて1 教えることと考えさせることを明確にした単元や授業の構成

「教える」時間として、全員で面積と重さの関係を確認したことにより、理解に時間がかかる児童も問題に取りかかることができた。また、比例の関係が見えるようにして提示したことで、「4マス関係表や比例の表を使えば良さそうだ」と考え方をを見つけ出すことができていた。



#### 手だて2 思考を促す課題の設定

今までに見たことのないような問題だったため、児童の追及意欲を高めることができた。解ける喜びのある問題であり、説明したいという気持ちも高めることができた。条件不足の提示をしたことで児童の中に困り感が生まれ、スムーズな思考で「公式では求められない面積はどうやったら求められるだろう」という本時の課題を導くことができた。

#### 手だて3 学びを深める話合いの組織

本時だけでなく、単元全体を通してペアトークと他者説明を多く取り入れた。「一人で考えるのではなく、誰かと一緒に考えられる上に、分からないときは教えてもらえる」という点でどの児童にも効果的だった。算数の授業への抵抗感も減ったようだ。他者説明は高度ではあったが、くり返し取り入れるうちに児童は上手に友達の意見を説明することができるようになった。

### <課題>

#### 手だて3 学びを深める話合いの組織

本時では全体検討を2回に分けて行った。そのうち全体検討②では「3つの解き方の似ているところはどこか」という発問を行った。3つを比較することは難しく、意見が出なかった。本時のまとめの言葉を導き出すための大事な検討部分だったのだが、意見が出ず、教員主導でまとめをつくってしまった。学習全体のまとめは児童の言葉で作ることができるようにすべきだった。

他者説明は児童の力を伸ばし、学習内容の定着をはかる上で有効ではあったが、「自分の考えを説明したい」という気持ちをそいでしまう恐れもある。よって毎回取り入れるのではなく、取り入れ方を十分に考えて行うようにしていきたい。

## 10 研究評価

・算数科についてのアンケート結果より

H27 7月 第1回目 学習の振り返りアンケート集計 全校 112

	とても	まあまあ	あまり	まったく
①算数の勉強は好きだ。	38.4%	47.3%	14.3%	0.0%
②算数の授業がよくわかる。	44.6%	42.0%	9.8%	3.6%
③発表が好きだ。	42.9%	25.9%	23.3%	8.7%
④友達のことを聞くのは好きだ。	59.8%	30.4%	7.1%	2.7%
⑤自分の考えを書くのは好きだ。	44.6%	30.4%	20.5%	4.5%
⑥ペアやグループで説明し合ったりいっしょに考えたりするのは楽しい。	66.1%	23.2%	10.7%	1.8%
⑦みんなでもっとかんたんに解く方法がないか、わかりやすい方法がないか話し合うことは好きだ。	58.0%	26.8%	12.5%	2.7%
⑧自分の考えを説明したり、みんなの考えを聞いたりすると勉強がよく分かるようになる。	54.5%	31.3%	9.8%	4.5%
学校平均	51.1%	32.1%	13.3%	3.5%

86%

H27 11月 第2回目 学習の振り返りアンケート集計 全校 112

	とても	まあまあ	あまり	まったく
①算数の勉強は好きだ。	42.0%	42.0%	13.4%	2.7%
②算数の授業がよくわかる。	44.6%	46.4%	8.2%	0.9%
③発表が好きだ。	28.6%	38.4%	25.9%	9.1%
④友達のことを聞くのは好きだ。	62.5%	32.1%	4.5%	0.9%
⑤自分の考えを書くのは好きだ。	43.8%	35.7%	17.9%	2.7%
⑥ペアやグループで説明し合ったりいっしょに考えたりするのは楽しい。	66.1%	21.4%	11.9%	1.9%
⑦みんなでもっとかんたんに解く方法がないか、わかりやすい方法がないか話し合うことは好きだ。	58.0%	34.8%	5.4%	1.8%
⑧自分の考えを説明したり、みんなの考えを聞いたりすると勉強がよく分かるようになる。	62.5%	30.4%	6.3%	0.9%
学校平均	49%	36%	13%	2%

91%

93%

93%

・学習指導改善調査（2回目）の結果より

対象：県平均を上回ることができなかった学年

内容：平均正答率が低く、無答が多かった問題

○式から考え方・解決方法を読み取り、説明を記述する（6年生）	設問1	(3)
正答率 27% ⇒ 54%		
無答率 15% ⇒ 4%		
式から考えが読み取れない 42% ⇒ 23%		
算数用語が使えない 23% ⇒ 7%		
○図から式や考えを読み取り、説明を記述する（5年生）	設問1	(2)
考え方の説明 23% ⇒ 40%		
立式 31% ⇒ 60%		

## 11 まとめ

今年度、三つの手だてを講じてきたことで、児童が課題に対して意欲的に取り組む姿が見られた。また、友達との交流を通して多様な考え方や他の考え方のよさに気づき、自分の考えに取り入れようとする態度が育ってきた。目指す子ども像「学び合い 考えを深める子ども」に育ってきている。このことは、上記アンケート⑦、⑧の肯定的評価が伸びたことから分かる。学習指導改善調査からは、式や図から考え方・解決方法を読み取って説明する問題の正答率が上がってきた。多様な考えにふれ、友達はどのように考えたのだろうと思考する力が育ってきた成果であると考えられる。

しかし、授業研究を積み重ねてきたが、児童の発言の取り上げ方、広げ方、考えを共有させる発問の仕方においては課題が残った。一人ひとりが「考えを深める」ために、手だての見直しや改善を図っていく必要がある。どのように友達と関わらせるのか、どの考えに関わらせるのか、どの考えをどのようにつなげていくのか、一時間の流れを構造的に展開していく力を伸ばしていけるよう、研究を重ねていきたい。